

## 活動報告

団体名	フェニックス救援隊
活動名	被災者のコミュニケーションと元気回復の為に炊き出しと経済支援活動
活動期間	2016年10月～2016年11月
活動の成果	<p>2016年11月12日は益城町広安西小学校、13日は南阿蘇村久木野小学校を会場とし音楽や炊き出しに延べ千数百人が参加するという「被災者のコミュニケーションと元気回復の為に炊き出しと経済支援活動」を実施しました。音楽は中越地震で被災した全盲で中学3年生のシンガーソングライターの佐藤ひらりさんと広安西小学校吹奏楽部とのコラボ演奏、食では女川に水揚げされた秋刀魚を仕入れ女川町職員やボランティアによって会場で塩焼にしました。開催日までの間、学校、PTAや被災した飲食店との打ち合わせや会議が何度も開催され三位一体型の企画となりました。少しでも実りあるものへの共通認識で益城町ベースのラブ&amp;アース、南阿蘇村のローカルメディア3と連携し、地元ニーズに対応するようにしました。連携チームは地元とコミュニケーションを重ねる内に互いにコミュニケーションが深まったものと思います。被災地における心のケアは極めて重要なテーマです。大規模自然災害が多々発生していますが、ボランティア活動を通じて被災地と被災地とつなぐ「縁と善の循環活動」にも繋がったと思います。</p>
寄付者へのメッセージ	<p>ボラサポ・九州への寄付者の皆様へ。お陰様で震源地の益城町と南阿蘇村の被災者を対象にした音楽と炊き出しのプロジェクトを昨年11月に実行し、心のケア活動をし皆の元気回復の一助になったものと思います。益城町は避難所となった広安西小学校、南阿蘇村は久木野小学校を会場にしました。音楽は中越地震で被災した全盲で中学3年生のシンガーソングライターの佐藤ひらりさん、食は宮城県女川町から取り寄せた秋刀魚1300尾を塩焼、加えて被災し開店できない地元飲食店から炊き出しを行う方法を取りました。些少ではありましたが、地元商店の活性化に貢献できたものと思います。参加者は両地域で千数百人に及び、地元新聞や放送局により報道されました。発災後、6か月が経過すると心身とも疲労が溜まり、また心が折れたり、折れそうになったりする時期でもあります。倒壊した家の後片付けや貴重品探しから始まり、仮設住宅への引っ越し、将来設計等、時間の経過と共に復興ステージが変わっていきます。普段通りの日常生活に復帰できるまでの間、大人も子供も笑顔が絶えない元気な生活実現の為に、活動を通じて少しはお役に立てたものと思います。皆様から善意の寄付金を役立てさせて頂く機会を得たこと、心より御礼を申し上げます。有難うございました。</p>

(活動のようす)

